

自主防災組織による火山噴火対策図上訓練 – 那須岳火山地域での実施事例 –

Map Drilling of Disaster Prevention by Voluntary Group – An Example at Nasu Volcanic Area –

福嶋 民也 (FUKUSHIMA Tamiya) : 公益社団法人全国防災協会,
高森 秀司 (TAKAMORI Shuji) : 一般社団法人DCM推進協議会,
稲葉 茂 (INABA Shigeru) : NPO栃木県防災士会,
中村 洋一 (NAKAMURA Yoichi) : 宇都宮大学,
那須町 (NASU, Local government) : 栃木県那須町,

National Association for Disaster Prevention)
Promotion Council of District Continuity Management)
Disaster Prevention Qualified Counselor in Tochigi)
Utsunomiya University)
Municipal Government of NASU Town)

1. 概要 (取組の背景・目的・経緯)

取組の背景

- ・那須岳は1408年～1410年の噴火時に180余人の犠牲者を出した。近年では1953年、1960年、1963年に小規模の水蒸気爆発型噴火が発生している。
- ・栃木県那須町は、観光客の多さや別荘地地域への移住者の存在が特徴的であり、防災に対しても行政だけではなく、新・旧の住民や観光客等が協働する防災体制の構築が求められている。



取組の目的

- ・火山災害を対象に、地域が主体となった災害対応力の向上を図るための教育訓練を支援する。

取組の経緯

■2012年度：防災セミナーと意識調査を実施

- ・防災危機管理セミナー「那須町の防災危機管理を考える」を開催
- ・セミナー参加者および町のイベント参加者の防災意識調査を実施

■2013年度：地元住民等を対象とした火山防災ワークショップを実施

- STEP1 : 2013. 11. 30 火山防災講座
 - STEP2 : 2013. 12. 19 災害図上訓練 (DIG: Disaster Imagination Game)
 - STEP3 : 2014. 1. 16 避難所運営訓練 (HUG: Hinanjo Un-ei Game)
 - STEP4 : 2014. 1. 30 状況予測型図上防災訓練へ向けて
 - STEP5 : 2014. 5. 25 状況予測型図上防災訓練 (予定)
- 於「ゆめプラザ・那須」 各回、30名～40名程度が参加

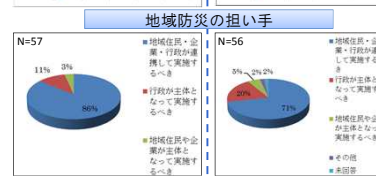
2. 那須町民の防災意識 (2012年度調査)



防災セミナー参加者は防災を最重要と評価しているが、別イベント参加者は福祉・医療を最重要と評価している。一般的な町民における防災の重要度が比較的低い結果から、那須町を比較的安全な地域として評価している可能性がある。



不安を感じる自然災害は地震・火山の順に高い結果となった。東日本大震災による地震への意識の高まりを想定すると、那須町においては、当初より**火山災害への意識が一定程度高い**ものと考えられる。



地域防災の担い手として、「地域住民・企業・行政が連携して実施するべき」とする回答が最多となっており、**住民が地域防災の一翼を担うことについて、参加意識の高い地域である。**

防災危機管理セミナー参加者、別イベント参加者(防災は無関係)

◇地域住民が主体となって火山災害に対応できる様に地域防災力の向上を目指したワークショップを実施する。

3. 火山防災ワークショップの実施 (2013年度実施)

STEP 1 : 火山防災講座

2013. 11. 30

■主旨：火山災害について学ぶ

火山防災ワークショップへの興味を持ってもらう

① 那須岳火山に関する基礎的な情報を提供



② 当日の講座の状況



STEP 2 : 災害図上訓練 (DIG: Disaster Imagination Game)

2013. 12. 19

■主旨：地域のリスクを自分達なりに整理し、理解する

災害図上訓練 (DIG) の実施と班毎の発表



<DIG訓練後のアンケート結果>

- ・噴火による降灰が、国道4号で20cmとなり、10cm以上の範囲は町全域に及ぶことを理解した。
- ・安全地帯まで車で30分以上が必要。
- ・町全体が広く、避難先が遠い。
- ・自宅近くの小中学校が、融雪型泥流の到達地であり、避難所には不向きであることを理解した。
- ・融雪型泥流により護岸が破損することを想定して、速やかに高台に避難することの必要を理解した。
- ・御富士山の町おこしや避難道路を含めた防災倉庫などを設け、今後の防災に役立てたい。

◇参加者が、自分達の生活する地域の火山リスクを自分で整理することで、地域に存在する災害リスクに対する理解が深まった。
◇災害リスクを踏まえた対応に関する「気づき」が得られた。

STEP 3 : 避難所運営訓練 (HUG: Hinanjo Un-ei Game)

2014. 1. 16

■主旨：災害時に想定される断続的な状況変化に対応した意思決定を経験する

① 避難所運営の進め方の基本的な情報を提供



◇短時間に様々な状況 (計200枚) を付与される状況を経験した。
◇班毎に判断結果には差があるが、各班で全員参加での判断を進め、全ての班が全状況付与カードに対応した。
◇各班の判断結果の違いを発表し相互に確認するとともに、各人に状況予測型防災訓練に向けた復習を促した。

STEP 4 : 状況予測型図上防災訓練へ向けて

2014. 1. 30

■主旨：状況予測型図上防災訓練の流れや火山警報等を理解する

① 状況予測型図上防災訓練の流れ等の理解

② 火山警報等の理解



まとめと今後の展開

◇DIGで学んだ「地域のリスクの状況」やHUGの経験をとおした「不測の事態への対応」などの経験により、ワークショップ参加者の防災に対する知見や意識が向上した。

◇住民が主体的に火山災害という困難に立ち向かう取組は端緒にすぎたばかりであるが、事前の教育・実経験は、実際の災害時の対応に有効に寄与すると考えられる。

◇これらの一連の取組を元に、状況予測型図上訓練を実施 (5月25日予定) し、那須町の火山防災の一層の強靱化を進めるとともに、今後の我が国の地域火山防災のあり方を提言する。